

平成30年度 具体的な学校経営計画

1 学びに向かう力の育成

| 本年度の重点目標 | 担当 | 目標達成のための具体的計画 | 達成基準 | 中間達成状況と評価 | | 最終達成状況と評価 | |
|----------------------------|----------|--|---|---|--------|---|--------|
| | | | | 達成状況 | 評価 | 達成状況 | 評価 |
| ①方谷学のシステム化 | 総合的な学習の係 | ・担当者の協力体制の構築と作成資料の蓄積を図る。 | 資料の蓄積ができたうえで A：より詳細な年間スケジュールが作成できた。 B：年間スケジュールが作成できた。 | 担当者の協力体制が構築でき、年間スケジュールを作成している。 | B | 本年度の反省点を活かして年間スケジュールを作成することができた。 | B |
| ②主体的・対話的で深い学びを育成する授業づくりの推進 | 教務課 | ・高梁高校学習指導のスタンダードの定着を図る。 | A：アンケートにより、全教職員の9割ができたと回答した。 B：アンケートにより、全教職員の7割ができたと回答した。 | 各年次の教務課員から各年次団に対して定着を図るよう継続的な声かけをしている。アンケートは1月に実施予定である。 | B | ほとんどの項目で7割を越えているが、9割まで達しなかった。授業の進め方に関して、現在教務課で改訂に向けて検討を始めている。 | B |
| | 文化課 | ・授業や調べ学習のテーマに即した館内特別展示を実施する。 | A：年間3回以上実施することができた。 B：年間2回実施することができた。 | 各教科にテーマ展示の要望を伺い、家庭科から要望のあったクッキーのアイシングに関する館内特別展示を1回実施した。 | B | 教科から要望のあった館内特別展示を2回実施した。[前期]クッキーのアイシングに関する展示(家庭科)。[後期]夏目漱石に関する展示(国語科1・2年)。後期の展示は、図書委員を通じて各クラスに連絡した。教科担当者から「有効だった」「動機付けになった」という感想が寄せられた。 | B |
| | 授業研究会 | ・ICT機器を利用して、生徒の関心・意欲を喚起する授業づくりをおこなう。 | 生徒アンケートの、「ICT機器の利用で授業内容への関心が高まった。」の肯定群の割合 A：8割以上 B：6割以上 | タブレットPC・iPadの各教科への配付が夏休み中に終了した。実際の活用が始まったところである。 | B | 本年度後半から、タブレットPC・iPadの活用を始めている。生徒アンケートの、「ICT機器の利用で授業内容への関心が高まった。」の肯定群の割合は75.8%であった。 | B |
| ③進路志望を実現させる学力の保証 | 進路課 | ①研修会などを充実し、教職員の教科指導力・進路指導力の向上に努める。 ②指導体制の整備をおこない、AO・推薦入試、2次対策指導の充実のため、校内の協力体制を構築する。 | ①A：進路検討会において活発な意見交換が行われ、2021年度入試へ向けた進路への意識の高まりを見た。 ②A：3年次所属以外の教員の半数以上が2次対策指導に関わった。 ①②共通B：例年なみの取り組み。 | ①職員会議や、夏季セミナーへの参加などを通し、教員のスキルアップが図れ、第1回の進路検討会では、生徒一人一人の指導方針、夏の学習の取り組み方などについて活発な議論がなされた。 ②夏季セミナーへ参加希望者が例年以上に増え、2次対策指導への意欲がうかがえる。今後、調整をしっかりとって、教員、生徒が意欲的に2次対策に取り組める環境を整備したい。 | A B | ①第2回検討会でも活発な意見交換が行われた。検討会資料に1年次、2年次の成績情報を表示することで、他年次所属の教員も検討会への参加意識を高めた。 ②AO・推薦受験者への指導は年次を超えた先生方に関わってもらった。2次対策へも続けたい。 | A B |
| | 3年次団 | ①(家)技術検定への取り組み充実 ②(普)センター試験に対応する学力の充実 | ①(家)職業教育技術顕彰者 A：5名 B：1名以上 ②(普)センター試験と2年2月マーク模試との比較 A：平均点が50点以上アップ(900点満点) B：平均点がアップ(900点満点) | ①現時点まで顕彰者1名は確定。 ②2月マーク406.7と比較し、6月マーク438.6、8月全統マーク428.1、9月マーク438.9と推移。 | B | ①(家)職業教育技術顕彰者は4名 ②(普)センター試験の平均点(自己採点)は487.1点で2月マーク406.7と比較し80点程のアップ | A |
| | 教務課 | ・学習指導要領の改訂に向けて、課内で調査研究を進め、生徒の進路実現を図るための教育課程の編成を目指す。 | 職員会議での報告に加えて A：課内員8回以上の報告 B：課内員5回以上の報告 | 現在、職員会議での報告2回 課内員の報告3回 | B | 新学習指導要領の改訂に向けて、全ての科目に関して、8回の報告を行い共通理解を図った。職員会議でも2回の報告を行うことができた。 | A |
| ④新しい大学入試への対策の推進 | 1年次団 | ・自己のポートフォリオ制作に備えてスコラ手帳を活用する。AO/推薦入試に対応できる自己分析能力の向上や自己アピール能力の育成を図るため方谷学に積極的に取り組む。 | A：スコラ手帳・ポートフォリオノートの記入がきちんとできる生徒80%以上。 B：スコラ手帳・ポートフォリオノートの記入がきちんとできる生徒50%以上。 | 手帳を継続的に記入できている生徒の割合は60～70%。スケジュール管理能力にも繋がるので、継続的に指導していく。 | B | 手帳の使い方にはそれぞれ巧拙はあるが、スケジュールをメモして管理していくという最低限の利用ができている生徒は70～80%今後も自己目標管理に利用できるよう継続的に指導する。 | B |
| | 進路課 | ・大学入試新テストの研究、ポートフォリオの研究に努め、入試動向・志望動向など、進路決定のための情報収集を積極的に行い、情報分析や情報発信をする。 | A：多くの教職員が、2021年度入試へ向けた様々な状況を、把握できた。 B：1年次団の教員が、2021年度入試へ向けた様々な状況を、把握し1年次生への周知徹底ができた。 | 様々なセミナーなどへの参加を通し、積極的な情報収集は行えた。今後は課題などを整理し、職員会議での教職員への周知を行った。今後は保護者への周知に努めたい。 | B | 職員会議、年次会議で教員への情報発信は十分に行ってきた。生徒、保護者への周知はまだ改善の余地がある。 | B |

2 豊かな人間力の育成

| 本年度の重点目標 | 担当 | 目標達成のための具体的計画 | 達成基準 | 中間達成状況と評価 | | 最終達成状況と評価 | |
|----------------|-------|--|--|---|----|---|----|
| | | | | 達成状況 | 評価 | 達成状況 | 評価 |
| ⑤安心安全な学習環境づくり | 生徒課 | ①定期的な校内巡視計画を立て、実施する。 ②「岡山県いじめ問題対策基本方針」の周知を図るとともに、いじめを認知するためにアンケート調査を3回実施する。 | ①A：実施率95%以上 B：実施率80%以上 ②A：アンケートを3回実施し、いじめの解消に向けて取り組むことができた。 B：アンケートを3回実施した。 | ①定期考査期間中（年間5回）に校内巡視計画を立て、実施している。 ②アンケートを1回実施した。気になる事案については、速やかに対応し、いじめの早期発見・解消に努めている。 | B | ①定期考査期間中（ここまで4回）に校内巡視計画を立て、実施してきた。【現在までの実施率100%】 ②7月、11月の2回、アンケートを実施した。数件の事例に対応することができた。【2月に第3回を予定】 | A |
| | 厚生環境課 | ①防災訓練を年間3回行い、危機回避の能力を身につけさせる。 ②非常変災等対策計画書に学校保健関係の危機管理マニュアルを追加する。 | A：防災訓練を3回実施できた。 B：防災訓練を例年通り2回実施できた。 A：非常変災等対策計画書に学校保健関係の危機管理マニュアルを追加できた。 B：例年通りの非常変災等対策計画書を作成できた。 | ①例年実施している2回の防災訓練に加えて、2月に緊急地震速報を用いた簡易的な防災訓練を実施するように計画をした。 ②非常変災等対策計画書は作成できたが、学校保健関係の危機管理マニュアルは追加できていない。 | B | ①例年実施している2回の防災訓練に加えて、緊急地震速報を用いた簡易的な防災訓練を実施するように計画を行っており、2月5日に実施した。 ○アナフィラキシー発症時の対応マニュアルを作成したので、来年度の危機管理マニュアルに入れたい。 | A |
| ⑥一体感と感動のある学校行事 | 生徒課 | ・生徒会行事（松籟祭など）に主体的に参加し、取り組もうと意識する生徒を育てる。 | A：松籟祭生徒アンケートでの「良かった」回答90%以上 B：松籟祭生徒アンケートでの「良かった」回答80%以上 | 松籟祭生徒アンケートでの「良かった」回答は96%であった。成果と課題を話し合い、来年度の松籟祭に向けて計画をしていきたい。 | A | 中間達成状況で評価済み | A |
| | 家政科 | ・家政科展20周年の記念の年として、生徒中心に企画運営させ新たな企画を実施する。 | A：生徒主体に家政科展の新たな企画が実施できた。 B：例年通り家政科展ができた。 | 4月から家政科展の企画を準備している。 | B | 生徒主体で家政科展で「20thのあゆみパネル展」や「全校制作」「制服案づくり」などの新たな企画が実施できた。 | A |
| ⑦海外姉妹校等との連携推進 | 総務企画課 | ・フランス「アンペール高校」との教育交流協定締結 | A：アンペール高校との教育交流協定を締結 B：モリアルタ高校との交流 | アンペール高校との協定を締結するとともに、モリアルタ高校への短期訪問も充実した内容で実施できた。10月～12月の短期留学受け入れも充実したものとなるよう準備を進めたい。 | A | アンペール高校との協定を締結し、来年度の受け入れについて日程を調整している。また、モリアルタ高校との交流も有意義に実施することができた。 | A |

3 学校組織の活性化

| 本年度の重点目標 | 担当 | 目標達成のための具体的計画 | 達成基準 | 中間達成状況と評価 | | 最終達成状況と評価 | |
|--------------------|------------|---------------------------------------|--|--|----|---|----|
| | | | | 達成状況 | 評価 | 達成状況 | 評価 |
| ⑧生徒と向き合う時間の確保 | 管理職 | ①月あたりの時間外業務各自10%減 ②業務のスクラップや見直しの推進 | ①A：学校全体で10%減 B：学校全体で5%減 ②A：さらに見直しができた。 B：スクラップができた。 | ①9月まで-11%減少した、スリム化や各自の取組による成果である。 ②学校開放日や講演会を削減し、スリム化を図った。業務の見直しは継続する。 | B | ①業務の見直しやスリム化、各自の取組により、1月までで-5.6%減少した。 ②年度後半において、新たな業務の削減はなかったが、引き続き見直しを進めている。 | B |
| | 3年次団 | ・8限補習の実施時期や内容の見直し | A：効果的な補習が実施できた上で検討会前や推薦・AOの準備時期に指導の時間が確保できた。 B：見直したが時間確保が不十分。 | 教科の需要を確認するとともに、担任の進路指導にあたる時間の確保ができるような計画を立てた。検討会前の11月は直近で見直しも検討する。 | A | 担任の進路指導にあたる時間が確保できるように担当者や内容を工夫し、例年と遜色なく実施できた。対象の生徒もその時間内に指導できるように自由度を持たせたのも効果的であった。 | A |
| ⑨広報活動の整理と生徒募集活動の充実 | 総務企画課 | ・ホームページの更新頻度を高めて、タイムリーな情報発信に努める。 | A：ホームページアクセス数が昨年度より10%アップ B：ホームページアクセス数が昨年度より5%アップ | 4～10月までのホームページアクセス数は、対前年比142.8%となった。新ホームページへの切り替えによる成果である。また、7月豪雨をきっかけに保護者あて配信メールとHPの利用をリンクさせタイムリーな情報発信ができた。 | A | 4～1月までのホームページアクセス数は、対前年比131.3%であった。年間を通じてブログの更新を随時おこなって生徒の活動等を情報発信することができた。 | A |
| ⑩140周年に向けての企画 | 140周年準備委員会 | ・同窓会・PTA・学校の協働による実行委員会の立ち上げ | A：実行委員会が結成され、記念事業の具体的な計画案ができた。 B：実行委員会が結成され、記念事業の素案ができた。 | ・校内実行委員会を開き、家政科を中心に制服の見直しを推進するとともに、他校の周年式典や行事の視察を計画した。 ・日時や場所などについて、同窓会役員やPTA役員と協議した。今後、計画の具体化を進める。 | B | ・制服の見直しは、候補案を絞りながら、計画通りに進行している。 ・記念式典の日程は2020年11月6日（金）、場所は高梁総合文化会館に決定した。 ・他校（5校視察）の周年行事を参考に行事案や予算案を作成し、計画内容の精選を行っている。 | B |